

地震は突発的に発生するので、日頃から防災意識を高めておくことが大切です。地震を正しく理解し、地震ハザードマップを活用して、いざという時に慌てず行動できるように備えましょう。

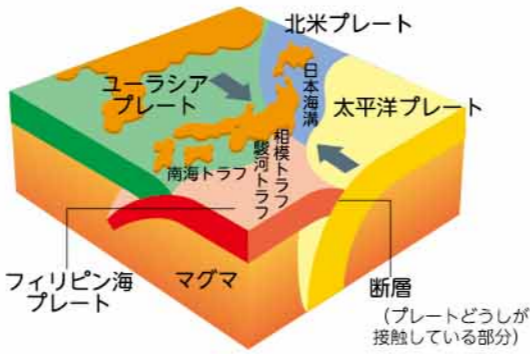
## 松伏町の被害の想定

埼玉県が平成24年・25年度に行った「埼玉県地震被害想定調査」において松伏町に最大の被害をもたらすと想定される地震は「茨城県南部地震(下記参照)」とされました。この想定による松伏町の震度は最大で6強とされ、次のような被害が予測されています。

●死者数……………4人(冬の午前5時・風速8m/s)	●停電被害予測(地震直後・火災なし)…7,877世帯
●負傷者数……………65人(冬の午前5時・風速8m/s)	●加入電話不通回線被害予測(※)…44回線、不通率0.34%
●液化化可能性(面積率)……やや高い27.8%・高い47.3%	●携帯電話不通ランク予測(※)……停電率11.7%、不通率0.3%
●全壊棟数(揺れ+液化化)……259棟	●都市ガス被害予測……………供給停止件数1,970件(供給停止率100%)
●半壊棟数(揺れ+液化化)……754棟	●水道断水予測(1日後)……………2,822世帯
●焼失棟数……………29棟(※)	●下水道管渠機能支障……………6,628人
※冬の午後6時・風速8m/s	

## 想定される地震について

日本列島の周辺には、右図のような4つのプレート(板状の堅い地殻)があり、年に数センチの速度で一定の方向に動いています。プレートどうしの運動により、プレートの境界や周辺で生じる「ひずみ」が、地震を引き起こす原因です。日本では主に海溝型と活断層型の2種類の地震がおこっています。



埼玉県による「埼玉県地震被害想定調査」では、3つの海溝型地震と2つの活断層型地震を想定地震とし、地震に関する項目、それによる各種の災害、被害、影響などを予測しました。なお、活断層型地震は、地震による破壊開始位置の設定によって震度分布が大きく異なるため、複数のパターンが設定されています。

## 海溝型地震

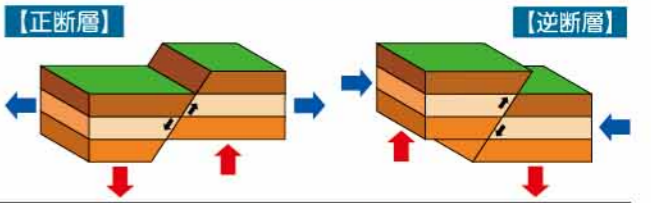
海洋側のプレートの潜り込みにより大陸側のプレートが引きずり込まれ、境界にひずみがたまり、限界に達すると元に戻ろうとしてはね上がり、地震が発生します。「平成15年十勝沖地震」(マグニチュード8.0)、「平成6年北海道東方沖地震」(マグニチュード8.2)、「平成23年東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)」(マグニチュード9.0、国内観測史上最大) など



◆想定される3つの海溝型地震		
<b>茨城県南部地震</b> ●マグニチュード7.3 松伏町の最大震度：6強 ●フィリピン海プレート上面の震源深さに関する最新の知見を反映 ●今後30年以内に南関東地域でM7級の地震が発生する確率:70%	<b>東京湾北部地震</b> ●マグニチュード7.3 松伏町の最大震度：6弱 ●フィリピン海プレート上面の震源深さに関する最新の知見を反映 ●今後30年以内に南関東地域でM7級の地震が発生する確率:70%	<b>元禄型関東地震</b> ●マグニチュード8.2 松伏町の最大震度：6弱 ●首都圏に大きな被害をもたらしたとされる元禄地震(関東大震災)を想定 ●今後30年以内の地震発生確率:ほぼ0%

## 活断層型地震

陸地の地殻もプレートの運動によりいたるところで「ひずみ」が生じています。このひずみを解消するため、過去の地震により生じた断層(活断層)を震源として地震が発生します。「平成7年兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)」(マグニチュード7.3)「平成16年新潟県中越地震」(マグニチュード6.8)など。



◆想定される2つの活断層型地震	
<b>関東平野北西縁断層帯地震</b> ●マグニチュード8.1 松伏町の最大震度： 北6弱・中5強・南5強 ●深谷断層と綾瀬川断層を一体の断層帯として想定 ●今後30年以内の地震発生確率：0.008%以下	<b>立川断層帯地震</b> ●マグニチュード7.4 松伏町の最大震度： 北5弱・南5弱 ●最新の知見に基づく震源条件により検証 ●今後30年以内の地震発生確率：2%以下

## マグニチュードと震度

マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の上の明るさの関係に例えることができます。



同じ電球からの光でも、机がどの位置にあるかで机の上の明るさは異なるように、マグニチュードが同じ地震であっても、震源が遠ければ震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。

◆マグニチュードとは  
 マグニチュード(以下Mと表記)は、地震の規模を表す単位です。関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3、東日本大震災はM9.0(国内観測史上最大)でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

◆震度とは  
 震度は地震の際の各地点の揺れの大きさを表します。ある地点が実際にどう揺れるかは、地震のエネルギー規模だけでなく、震源からの地点までの距離、地盤条件等に左右されます。

◆震度6強の被害とは  
 松伏町での「茨城県南部地震」での、最大震度6強の被害は、次のように想定されています。

**震度6強**

- はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

## 地震ハザードマップの使い方

地震ハザードマップは、被害を最小限にすることを目的とした地図です。地震災害に関する情報や避難方法などの知識を得ることで、日頃からの防災意識が高まり、被災時に避難行動がスムーズに行われます。松伏町の地震ハザードマップは、埼玉県による「埼玉県地震被害想定調査」の結果をもとに、作成されています。「埼玉県地震被害想定調査」は、首都直下地震に係る最新の科学的知見や、埼玉県における過去の被害地震を踏まえたものです。

- 1 地震について知りましょう**  
 松伏町で想定されている地震について知っておきましょう。震源や被害の知識を得ることで、災害に対する意識が変わります。
- 2 避難の方法を検討しましょう**  
 ハザードマップで自宅と避難所を確認して、避難経路を検討しましょう。また、実際に歩いてみて、危険な箇所はないか確認しましょう。
- 3 地震に備えましょう**  
 備蓄品等の物資の準備はもちろん、家の耐震補強や家族での連絡方法等の確認を事前にする事で、被害を最小限にすることができます。